

これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言 概要

令和4年10月
長野県生涯学習審議会

趣旨

概ね2035年を展望する中・長期的な視点に立って、今後5年間における本県の生涯学習、社会教育振興の基本的な方向性についての提言

現状認識

より不確実で正解のない時代（VUCA）

- テクノロジーの進化、災害の頻発・激甚化、新型感染症の脅威など、変化が激しく先の見通せない時代に
- 地域社会では、急速な人口の減少などにより地域の担い手が不足し活力が低下したり、コロナ禍の影響により人と人とのつながりが希薄化するなど、簡単には解決策を見出すことができない様々な課題が顕在化

人生100年時代、3ステージからマルチステージの人生へ

- 人生100年時代、教育→仕事→引退の3ステージから、複数の仕事や役割を経験するマルチステージへの移行が可能に
- マルチステージの人生を実現させていく意志と能力を、一人ひとりが身に付けていく必要がある
- 学校教育を修了した後も引き続き学び続ける人と、学びを止めてしまう人の二極化が懸念される

誰一人取り残されることのない社会の実現

- 障がい、性的マイノリティ、ジェンダー、国籍、経済状況、家庭環境などにより困難な状況にある人も、誰一人として取り残されることのない社会の実現が求められている

基本理念 すべての人がつながり、学び合い、共に変わり続ける“シン・生涯学習社会”へ

真

生涯をかけて自己変容し続ける「真」の生涯学習へ

- 大人は「学び終えた人」ではない
- だれもがマルチステージの人生を実現させていく意思と能力を、生涯にわたって持ち続け、それぞれが思い描く幸せに向かって自己変容していくことができる
- 学びによって、だれもがWell-beingを実感できる長野県を目指す

新

いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

- 最新のテクノロジーを最大限活用
- 年齢によらず「いつでも」学べる
- 場所の制約なく「どこでも」学べる
- 「だれとでも」つながり、学び合える
- 学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県へ

信

学び合いから「信」頼を紡ぐ。一人ひとりが生きる持続可能な地域社会へ

- 「答えのない問い」に対して、地域の特性に応じた「自分たちの答え」を探究していく
- 対話を繰り返しながらつながり、知恵を持ち寄り、信頼を紡いでいく
- 支える、支えられるという関係を越えて、みんなが主役に
- 誰一人取り残されることのない、持続可能な地域社会を創っていく

施策の方向性

「生涯学習者」の育成

- 子ども達の好奇心や感性を刺激し、探究的な学びにつながる環境づくり

働く世代、子育て世代の学び直し、つながりづくり

- リカレント教育・リスキリングの推進
- 学びほぐし、共創のためのサードプレイス（第3の居場所）づくり
- 子育て世代の居場所づくり

シニア世代の多様な学びの推進

- 年齢や心身の状態にかかわらず学び合える場の充実

学びの新しい基盤整備

- 図書館、公民館、博物館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化（サービスのデジタル化、資料のデジタルアーカイブ）
- オンライン学習の活用推進

- デジタル技術を活用したバリアフリー推進

デジタル・ディバイドの解消

- 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
- 多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり

社会的包摂の推進

- 障がいの生涯学習の推進
- 国籍、経済状況、孤立・孤独等、様々な事情で学びの機会に恵まれていない人、困難を抱える若者等への学習機会の提供

多様性を活かした地域コミュニティづくり

- 世代、職業、個性が混ざり合い、誰もが仲間づくり、地域づくりができる公民館活動の推進
- 公民館等の社会教育施設で、地域住民に寄り添いコミュニティの課題解決力を引き出すコーディネーターの育成と連携
- 学校と地域、家庭が互いに成長するスクール・コミュニティの推進